

令和7年度  
中学生・高校生の税に関する作文集



狭山市 七夕の妖精

おりひい

狭山市租税教育推進協議会

狭 山 市

## 目次

### 中学生の税についての作文

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

修学旅行と税金のつながり

狭山市立中央中学校

三年

落合

璃子

1

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会

優秀賞

八百四十八のぬくもり

狭山市立中央中学校

三年

林

咲

希

2

所沢県税事務所長賞

未来をつくる税

狭山市立入間野中学校

三年

佐久間

涼乃

3

狭山市優秀賞

見えないところで働く税

狭山市立堀兼中学校

三年

新井

海夕

4

くらしを支える税金

狭山市立柏原中学校

三年

山崎

友理

5

## 税に関する高校生の作文

僕の生活を支える見えない力 西武学園文理中学校 一年 大澤 龍一 6

税金で支えられている日本の社会 西武学園文理中学校 一年 山口 理仁 7

### 所沢税務署長賞

祖父は煙を吐き、私はモヤモヤを吸い込んだ 埼玉県立狭山経済高等学校 三年 酒井 希 8

「あたりまえ」をつくるお金のしくみ 秋草学園高等学校 二年 山 元 美彩 9

税と未来 西武学園文理高等学校 二年 田 谷 幸平 10

### 所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞

変えられる未来 埼玉県立狭山経済高等学校 一年 高 橋 佳子 11

税金 埼玉県立狭山経済高等学校 一年 森 谷 蒼太 12

一般社団法人所沢法人会会長賞

最近あったいい事

埼玉県立狭山経済高等学校 一年

伊波 樹里

13

所沢県税事務所長賞

税金に込められた支えの力

西武学園文理高等学校 二年

吉岡 優里

14

狭山市納税貯蓄組合長賞

未来のために

埼玉県立狭山経済高等学校 一年

小俣 月乃

15

共助

西武学園文理高等学校 二年

横道 雄

16

狭山市優秀賞

負担するものから投資するものへ

埼玉県立狭山経済高等学校 一年

羽鳥 結生

17

私たちの未来を支える「税」というバトン

秋草学園高等学校

二年 横山 裕香

18



(所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞)

## 修学旅行と税金のつながり

狭山市立中央中学校

三年 落合 璃子

楽しみにしていた修学旅行。一日目は鹿で有名な奈良公園に行きました。奈良公園へ向かう道中、歩きながら見えるのは、人が歩く道路にもいる鹿や、外国人も多くにぎわっている奈良の街並みでした。特に印象的だったのは鹿の大きさと多さです。思っていたより、大きくて鹿せんべいをあげるのは少し怖かったです。東大寺に入る前のギリギリの所にも鹿がいて驚きました。

奈良公園に行った後、東大寺へと向かいました。その存在感に圧倒されながら、こんなにも大きな木造建築が、長い間大切に保存されているのはなぜだろうと疑問に思いました。調べてみると、大仏殿をはじめとする歴史的建造物の修復や維持管理には、税金が使われていることを知りました。奈良公園の清掃や鹿の保護活動、そして私たちがスムーズに移動できた公共交通機関や道路の整備も、全て税金によって支えられていると知り、修学旅行の体験が、多くの人の協力と税金によって守られているのだと実感しました。

二日目からは京都での班別行動でした。奈良とはまた違う、伝統的な街並みや独特の景観に、京都らしさを感じました。金閣寺の輝き、清水寺の舞台から見える壮大な景色、そして何百年も前に建てられたお寺や神社の立派な雰囲気は圧倒されました。これらの歴史的建造物が、長い年月を経ても美しい姿を保っているのはなぜだろうと、奈良で大仏殿を

見たときと同じ疑問を抱きました。タクシーの運転手さんや自己学習を通じて、こうした文化財の修復や維持には多額の費用がかかり、その多くが国や地方自治体の税金でまかなわれていることを知りました。税金は、ただ道路を整備したり、生活を便利にするだけでなく、日本の大切な歴史や文化を未来へとつなぐ、非常に重要な役割を担っているのだと強く感じました。

奈良での豊かな自然と歴史、京都での伝統的な文化と歴史的な建造物。今回の修学旅行では、日本の誇る文化遺産を肌で感じる事ができただけでなく、私たちの生活がいかに税金によって支えられているかを深く考えるきっかけとなりました。税金は、ただ遠い存在ではなく、奈良の鹿や京都の社寺、そして私たちが当たり前だと思っただけで暮らしている生活の土台を支えていると同時に、日本の大切な歴史や文化を未来へとつないでいくための、重要な役割を担っているのだと確信しました。奈良の鹿も、京都の社寺も、そして私たちが当たり前だと感じている日々の暮らしの基盤も、すべては税金によって支えられていたのです。この修学旅行での学びを胸に、将来、社会の一員として、税金の役割を理解し、協力していきたいと強く思います。

（所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞）

## 八百四十八のぬくもり

狭山市立中央中学校

三年 林 咲希

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

税の作文を書くにあたりふと脳裏をよぎった一文。いつも何気なく学校で使っている椅子、机、これらもすべて税金で私たちに無償で支給されているものだ。

学校にあるものから、私は思い出深い出来事をひとつ思い出す。突然の話になるが私は小学二年生の時、学校が大嫌いだった。転校しての新天地に緊張して学校にいると心細かったからだ。そんなときに心の支えになったのは図書室だった。たくさん種類の本。落ち着いていて安心感のある空間。私は毎日のように図書室に通った。本は独りぼっちで寂しかった私をいろんな世界に連れて行ってくれた。本を読むたび登場人物に励まされ、色々なことを教えてくれている気がしていた。そのうち好きな本つながりで現在まで交友が続くような友人もできた。そうしてだんだん学校が好きになっていった。

あのときの本は税金によって賄われた本だと思うと、あの時私を色々な世界に連れて行ってくれ、元気づけてくれたのは税金を払ってくれていた人たちなのではないかと思うようになった。

ふと気になり、私は何人の人たちに支えられてきたのか調べてみることにした。現在（令和七年七月）の狭山市立小、中学校に通う生徒は約

九千人、そして、狭山市の教育費（予算）約十四億円。教育費を児童数で割ると、市立小、中学校に通う生徒一人当たりの教育費は約十六万円が使われていることが分かる。そして、令和五年度の納税者数約九万人。教育費を納税者数で割ると、児童一人当たり納税者一人は約二百円負担していることが分かる。最後に教育費÷児童一人当たり納税者一人の負担額を計算すると八百四十八人になる。つまり私は約九百人の人に支えられていたのだ。

これから、少子高齢化によりこの支える手がどんどん少なくなってしまうのかもしれない。けれど、私のように学校や公共の施設によって救われる子はいらるだろう。私を支え、救ってくれた人たちの期待に応えられるよう、大切に教科書を使い、私も将来未来を担い、あのときの私のような子を救えるような八百四十八分の一人になりたい。

（所沢県税事務所長賞）

## 未来をつくる税

狭山市立入間野中学校

三年 佐久間 涼乃

「税金」という言葉を聞くと、多くの人は「払わなければならないお金」という印象を持つのではないでしょうか。けれども私は、税を「未来をつくる投資」と考えるようになりました。

例えば、環境問題に対する取り組みです。近年、再生可能エネルギーの研究や、森林保全、海のプラスチックごみ対策などに税金が使われています。私たちの世代が大人になるころ、地球環境がどうなっているかはとても重要な問題です。税金が使われることで、未来の環境を守るための一歩が踏み出されているのです。

また、医療や科学の分野でも税が活用されています。新しい治療法の研究や、新薬の開発には大きなお金が必要です。その資金の一部を税が支えていることで、多くの人の命が救われています。もし税がなければ、研究は遅れ、助かるはずの命が失われるかもしれません。

私は将来、ITや科学技術がさらに発展し、社会の形が変わると思います。そのときに必要なのは、技術を正しく使い、すべての人が安心して暮らせる社会をつくることです。その基盤となるのが税だと考えます。税がなければ、研究や社会インフラは進まず、未来を築くことができません。

さらに、国際協力の場合でも税は役立っています。海外で災害が起きたときに日本が支援できるのも、税が使われているからです。遠い国の

出来事でも、私たちと無関係ではありません。地球全体の未来を考えれば、税は国境を越えて人々をつなぐ力になっているのです。

これから働くようになれば、私も税を納める立場になります。そのときに「今の暮らしのため」だけでなく、「未来をよりよくするため」に納めているのだと意識したいと思います。そして、税の使い道について無関心ではなく、自分なりの意見を持ち、社会に関心を持ち続けることを大切にしたいです。



(狹山市優秀賞)

## 見えないところで働く税

狹山市立堀兼中学校

三年 新井 海夕

私たちの生活は税によって支えられている。学校で勉強するための教科書の一部や校舎の建設費、道路や橋の整備、さらには病院や消防署など、身近なところで税が役立っている。もし税がなければ、安心して学んだり、病氣やけがをした時にすぐ医療を受けられたりする社会は成り立たない。税は「みんなで負担し合い、みんなで利用する仕組み」であり、社会全体を動かすために欠かせない存在だといえる。

さらに、税は私たちが普段気づかないところでも大きな役割を果たしている。夜道を照らす街灯の電気代や、道路の補修工事、上下水道の維持管理などにも税が使われている。電車やバスなど公共交通の運行を支援するためにも税は使われており、多くの人が通学や通勤を安全に行えるように支えているのだ。毎日当たり前のように使っているインフラやサービスは、税があるからこそ維持できている。私たちは意識しなくても、常にその恩恵を受けて暮らしているのである。税は「目に見える安心」だけでなく「気づかない安心」を生み出しているのだ。

また、未来の社会をつくるためにも欠かせない。教育や医療の充実、環境保護、さらには新しい技術の研究開発などにも税は使われている。しかし、それらは将来の私たちの生活をより豊かで安心なものにしてくれるための大切な投資である。税は現代だけでなく未来を見据えて使われ、次の世代へと社会をつなぐ役割を果たしているのだ。

私は先日、ニュースで高齢者を支える介護制度について知った。介護

サービスや施設の運営には多くの税が投入されており、それによって家族だけで支えきれない部分を社会全体で支える仕組みが成り立っているという。少子高齢化が進む中で福祉の分野に税が使われることはますます重要になるだろう。このように税は子どもから大人まで、さらには高齢者に至るまで、すべての世代を支える土台となっているのだと感じた。

私はまだ中学生で税を納める立場にはない。しかし将来は働き、社会の一員として税を負担していくことになる。そのとき「自分が納めた税が誰かの役に立っている」と実感できるようにしたい。税は、見えるものから見えないものまで、私たちの生活を幅広く支え、未来をつくる力である。だからこそ、私は税の大切さを理解し、人のためにできる大人になりたい。そして、安心して暮らせる社会を、次の世代にも残していきたい。

(狹山市優秀賞)

## くらしを支える税金

狹山市立柏原中学校

三年 山崎 友理

「税金」という言葉は、テレビやニュースや授業などでよく耳にしたことがあります。ですが、私は最近まで、税金がどのように使われているのかあまり考えたことがありませんでした。税の作文を書くために税の使い道について調べたとき、私たちの生活は税金で支えられているんだと実感しました。

税金の使い道は様々です。例えば、私たちが通っている学校も、税金で成り立っているそうです。校舎の建設費や教師の給料、教科書の一部なども税金から出ているそうです。もし税金がなかったら、学校に通えなくなる人もいるかもしれません。また、道路や公園、病院、消防や警察など、私たちの安全や健康を守るためのさまざまな施設やサービスも税金で運営されています。救急車はお金がかからないそうです。これらの施設は、国民が生きていくために必要になるものなので、税金によって支えられているのだと知って、本当にありがたいなと思いました。さらに、災害のときなどにも税金が使われることがあるので、調べてみて、税金は人が生きるのに必要不可欠なものだなと感じました。

もし、この税金という制度がなかったら、私たちの暮らしはどうなってしまうのか考えてみました。税金がなければ、学校に行くにもお金がかかり、経済的に余裕のない家の子どもたちは教育の機会を失います。病院も高額な費用がかかるので、治療を受けられない人が出てくるかもしれません。道路などの修理もされず、何かあっても救急車や消防車が

来ないような不安定な社会が想像できました。国の安心と安全が保たれているのは税金のおかげでもあると改めて思いました。

しかし、税金はただ集めればいいというものではありません。集めたお金をどう使うかが大切です。誰かの利益のためだけに税金が使われるようなことはあってはいけません。納得する人もいません。だからこそ、これから社会人になる私たちも、今社会人の人も、税金の使い方に関心を持ち、考え、声を上げることが大事だと思います。

今はまだ税金を払う立場ではありませんが、もう少しで私たちも納税するようになります。そのときに、税金を払う意味や使い道を理解した上で、責任をもって社会に参加していきたいです。そして、税金によって支えられてきたことへの感謝を忘れず、今度は支える側として、くらしを守る一人になりたいです。

(狹山市優秀賞)

## 僕の生活を支える見えない力

西武学園文理中学校

一年 大澤 龍一

僕は私立の一貫校に通っていて、毎朝五時半に起きて、六時半には家を出ます。当たり前のように電気をつけ、水道で顔を洗い、朝ごはんを食べて学校に行きます。でも、これらの「当たり前」は、実は税金という見えない力に支えられていることに、最近気づきました。

きっかけは、学校で開かれた税教室で税理士さんが話してくれた一つの質問でした。「もし、税金がなかったら、君たちの生活はどうなると思う？」と聞かれ、私は今まで考えたことがありませんでした。でも、よく考えてみると、私の生活のあらゆるところに税金が使われていることに気づいたのです。

毎朝の通学路にも税金の支えがあります。信号機が僕たちの安全を守り、横断歩道や歩道橋があるから安心して歩けます。雨の日でも道路に水たまりができないのは、排水溝がきちんと整備されているからです。

僕は生まれつき体が弱く、定期的に病院に通っています。検査や薬代は本来なら高額ですが、子ども医療費助成制度のおかげで、ほとんど負担がありません。もしこの制度がなかったら、家族の負担は月に何万円にもなっていたはずですよ。私立学校に通えるのも、医療費が税金で支えられているからこそだと思います。図書館も僕の大切な居場所です。新しい本がどんどん入ってきて、無料で借りられます。夏休みには涼しい図書館で宿題をしたり好きな小説を読んだりしました。一冊千円以上する本を何冊も買うことはできませんが、図書館があるおかげで、たくさ

んの本と出会えます。

最近、ニュースなどで海外の戦争や紛争を見ることがあります。図書館や学校も病院も壊され、子どもたちが勉強できない様子を見ると、悲しい気持ちになります。平和で誰もが平等に教育を受けられるのは、本当に恵まれていると感じます。この平和な社会を維持するためにも、大切な税金が使われていることを知りました。

なぜなら、私が夢を追いかけられるのも、税金で支えられた安全な日本の社会があるからです。夢を実現させて、今度は私が社会人になり、税金を通じて次の世代を支える番だと思っています。

税金について学んで、一番変わったのは買い物をするときの気持ちです。以前は消費税を払うのは嫌でしたが、今は「このお金が誰かの役に立つ」と思えるようになりました。百十円のパンを買うとき、その十円が救急車になったり、図書館の本になったり、困っている人の支えになったりすると考えると、気持ちよく払えます。

最後に僕は将来シェフになりたいという夢があります。自分のお店を持つたら、きちんと税金を納める経営者になりたいです。税金は、私たちの生活を支える見えない力です。一人一人が少しずつ負担すること、全員が安心して暮らせる社会ができています。これからも感謝の気持ちを持って生活したいです。

(狹山市優秀賞)

## 税金で支えられている日本の社会

西武学園文理中学校

一年 山口 理仁

ぼくは「税金は大人が払うもの」と今まで思っていました。お菓子を  
お店で買うときも「おこづかい減るじゃん」そう思っていました。でも  
今回、学校での講演会で税金は私たちの生活を支えてくれていることが  
分かりました。本稿では税金の大切さ、そして必要性について説明して  
いきたいと思っています。

まず、税金は公共のインフラやサービスの維持に使われています。私  
たちがいつも利用している道路や信号機、駅舎なども税金で整備されて  
います。そしてもちろん、図書館や公民館なども税金が使われています。  
地元の小学校も同様です。こういった施設を安心して使えるのも税金の  
おかげなんです。

次に、税金は社会保障制度を支える大きな柱になっています。ぼくた  
ちが病気になったときに病院に通えるのも税金のおかげなんです。医療  
費の一部は税金でまかなわれています。おじいさん・おばあさんなどの  
高齢の方が現在受けとれる年金は税金がたくさん使われています。日本  
では少子高齢化が進んでいるため、高齢層のサポートも大事です。

さらに、災害時の復興にも税金が使われています。日本は地震・台風  
などの自然災害が多い国です。支援物資を届けるのにも、税金はかせ  
ません。そして多くの税金が被災地の復興に使われています。使い道を  
知れば取られるだけでなく備えになることが分かりました。ですが、税  
金の使い道について無駄使いが指摘されることがあります。公共事業を

行うときによく言われているように感じます。また、税金の使い道に対  
する効率性が求められています。税金は大切に使うてほしいと思います。  
ここまで日本の税の現状について説明してきました。ですが、ここか  
らは今の日本の税の問題点について説明していきます。まず、今の税負  
担はバランスがとれていないと思います。そして「消費税」は全ての国  
民に同じ税率が課されているため、低所得層への負担が大きくなってし  
まっています。また、法人税、資産税がまわりと比べて低いので、所得  
格差が広がってしまうため、税制の公平性が問われています。次に、ぼ  
くも思うこと、それは「税金の種類が多くて複雑」なことです。所得税  
や消費税などをはじめ、日本には税金が約五十種類あるといわれていま  
す。これは納税者の負担が大きくなってしまっているのでよくないと思います。  
そして日本では少子高齢化が進んでいるため、税金を安定して回収でき  
なくなることが問題視されています。高齢者に対しての社会保障制度の  
増大に対して働き手が少なくなっているため、持続可能な税金の回収が  
難しくなっていると思います。

今回、講演会をきっかけに税についてよく分かりました。ぼくも将来  
たくさん税金を納めることになるかと思っています。ぼくが税金を支払う  
頃には「政治とカネ」といった問題がなくなるといいな、と思いました。

（所沢税務署長賞）

## 祖父は煙を吐き、私はモヤモヤを吸い込んだ

埼玉県立狭山経済高等学校

三年 酒井 希

私の祖父は、毎日たばこを吸う。朝起きてまず一服、お昼のあとに一服、夕飯のあとにも必ず一服。祖父にとっては、たばこは長年の習慣であり、生活の一部だ。しかし私は、たばこの煙が苦手で、部屋において残ることも嫌だと感じていた。家族としては健康面も心配だ。最近では、祖父の咳がひどくなることも増え、体調を気にする祖母とよく言い合いになっている。

そんなある日、学校で「税金」について学んだとき、たばこ税というものがあると知った。興味を持って調べてみると、たばこの価格の約六割以上が税金であること、そしてそのお金が国や地方の財源として使われていることが分かった。例えば、医療や福祉、公共施設の整備など、私たちの生活に欠かせない部分を支えるために、たばこ税が役立っているというのだ。

正直、最初は「そんなに税金を取られているのに、なぜ祖父はたばこをやめないのだろう。」と思った。しかし、逆に考えれば、祖父がたばこを買うことで税金を納め、それが社会の役に立っているともいえる。

しかし、ここで複雑な気持ちにもなる。なぜなら、たばこ税によって得られた財源が、結局は喫煙によって健康を害した人の医療費にも使われているという現実があるからだ。たばこは健康に害を及ぼすものだとわかっていながら、そこから得たお金が医療に使われているというのは、なんだか矛盾しているようにも感じた。

祖父にこの話をしてみたところ、「俺の税金で誰かの役に立っているなら、それはそれでいいことだ。」と笑っていた。確かに一理ある。しかし私は、祖父が健康で長生きしてくれることの方がずっと嬉しい。できれば、税金のためでなく、自分自身と家族のためにたばこをやめてほしいと願っている。

税金は社会のために欠かせない仕組みだと学んだ。たばこ税もその一つとして、多くの人の生活を支えている。しかし同時に、健康を害することのない方法で税収を得ることも、これからの課題だ。私にできることは少ないかもしれないが、まずは身近な祖父との会話から、少しずつ社会のあり方を考えていきたい。

(所沢税務署長賞)

## 「あたりまえ」をつくるお金のしくみ

秋草学園高等学校

二年 山元 美彩

「税金」と聞くと、大人になってから関わるもの、というイメージがあるかもしれない。でも、税金はすでに私たちの身の回りに深く関わっている。学校で勉強ができることも、安全な道を歩けることも、必要ときに病院で治療を受けられることも、実は税金のおかげだ。普段の生活では気づきにくいけれど、税は私たちの暮らしを支える大きな土台となっている。

たとえば学校。教科書や机、校舎の整備、そして先生たちのお給料も、すべて税金によって支えられている。進学のサポートをしてくれる制度や特別な支援が必要な生徒を助ける取り組みなども、税によって成り立っている。また、病院にかかる医療費の一部が補助されているのも、道路や公園が整備されているのも、すべて税金の役割によるものだ。つまり税金は「自分だけ」ではなく「みんな」の生活を支えるために使われている。

税には「再配分」という役割もある。これは、経済的に余裕のある人がより多く税を負担することで、困っている人を支えるという仕組みだ。たとえば、収入が少ない家族にも医療や教育の機会が平等に与えられるよう、税金が使われる。このように、社会の中で誰かが困っているときに支え合うのは、税の制度があるからこそだと思う。

また日本では少子高齢化が進んでおり、高齢者を支えるための年金や医療費が年々増えている。将来、働く世代の人口が減っていく中で、税

の使い方や集め方をどうしていくかは、これからの大きな課題だ。私たち高校生も、いずれ社会に出て税を納める立場になる。そのときに必要なのは、「なんとなく払う」のではなく、「何に使われているのか」を理解し、自分の意見を持つことだと思う。

税はただのお金ではなく、社会を支える大切なしくみだ。身近なところを目を向ければ、その役割の大きさに気づくことができる。これからの時代、税について正しく知り、自分たちの未来をどう作っていくかを考えることが、私たち一人ひとりに求められている。

（所沢税務署長賞）

## 税と未来

西武学園文理高等学校

二年 田谷 幸平

最近、参議院選挙が大きな話題となった。今回の選挙では、国債発行による財政拡大や減税を訴える「積極財政派」が議席を伸ばしたのである。国民民主党、れいわ新選組、参政党といった政党が合計で二十七議席も増加したことは、国民の一定の支持を示す結果といえるだろう。しかし、私がこのニュースを見て感じたのは、国債を発行し、消費減税を行うことは本当に効果的であり、日本の未来のためになるのか。本稿では「国債発行」という視点から税のあり方を考えたい。

結論から言えば、私は国債発行を伴う消費減税には否定的である。なぜなら、国債は必ずしも安定的に売れるとは限らず、実際に長期国債の需要は低下傾向にあるからだ。国債は本来、将来の成長につながる投資や、社会の基盤を強化するための財政政策に用いられるべきである。それにもかかわらず、目先の物価高対策として減税の財源に充ててしまえば、返済の重荷を将来世代に押しつけることになりかねない。

一方で、私は消費税減税そのものは必要だと考える。なぜなら、生活必需品の値上がりは家計を直撃し、特に所得の低い層に深刻な負担を与えているからである。では、その財源をどのように確保すべきだろうか。私は、法人税や社会保険料の見直しによって捻出するのが妥当だと考える。大企業や高所得層に応分の負担を求めることで、消費税減税を実現すれば、税制の公平性は一層高まる。

さらに、医療費の使い方についても改善の余地がある。たとえば、軽

症でも薬局で対応できるような湿布や処方薬まで保険を適用する現状は、財源の無駄遣いと言える。もちろん、持病や重症に苦しむ人々への支援は維持すべきだが、制度の見直しを通じて無駄を削減すれば、消費税減税の財源はより現実的なものになる。

税は本来、所得の再分配を通じて社会の公平性を確保するための仕組みである。制度の見直しは一時的な混乱を招くかもしれないが、適切に設計された税制は日本をより良い方向へ導く力を持つ。だからこそ、私たち一人ひとりが税のあり方について考え、意見を発信することが大切だ。その積み重ねが新たな議論を生み、社会を変えていく原動力になると、私は信じている。

（所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞）

## 変えられる未来

埼玉県立狭山経済高等学校

一年 高橋 佳子

朝、暑さで目が覚めた。エアコンが使えない。不安を抱えつつ学校の準備をする。外に出ると、信号は消えクラクションが鳴り響く。道路には大きな穴が空いたまま放置されていた。電車はとまっているらしい。学校へ向かってみても、校舎は老朽化して、先生もいない。そう、ここは「税金のない世界」だ。

現代、社会という大きな一本樹を支える幹は税金である。けがをして意識がない、熱中症で人が倒れた。普通ならすぐに一九番して救急車がかけてくれる。けれどこの世界では救急車を呼ぶと料金が発生する。また医療費負担なんというものも存在しないため高額な医療費が発生する。さらに、入院中働けないからといって国からお金もらえることもない。そのため、命の恩人に対して罵倒することがあるかもしれない。私はそんな社会を想像しただけで反吐がでると感じる。

救急車に限らず、道路・上下水道・警察などの公務員。これらのものが現代とは大きく変化する。道路が壊れたら修理費がないためそのまま、水汚染が発生、教師の給料を払うため桁違いの学費。税金という大きな柱はこの日本にかかせないものである。

しかし、税金に対して国民からの不満が大きいという問題をかかえている。国民の不満の理由はこうである。負担の大きさや将来への不安。それに加え政治家の不祥事から使い道への不信任感。また政治家が会議中に居眠りをしたことを機に更に不満が募っていったと考えられる。

これらのことから私は日本という国の未来への不安が高まった。しかし、未来は変えられる。未来を変えることが出来るのは今を生きている者の特権であると私は考える。国民はもつと政治に興味を持ち、まずは選挙に行き民主主義を確立させる。政治家は税金の使い道をもつと明確に提示したらいいいのではないかと考えた。私は十六歳のため政治に直接的な関わりも選挙に行つて投票することもできない。けれど私は十八になることを待ち望んでいる。私は私にできることをしていこう。



(所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞)

## 税金

埼玉県立狭山経済高等学校

一年 森谷 蒼太

私たちは普段の生活の中で、税金を意識する機会はそれほど多くないが税金は私たちのすぐそばで確実に社会を支えている存在だ。今回、税について調べてみて、私は税金が未来をつくる大切な仕組みであることに気づいた。

まず驚いたのは、税金の使い道の広さだ。教育や医療、福祉、道路や公共交通、さらには災害対策や環境保護にまで使われている。たとえば通つてる経済も建物の整備や先生達の給与など、多くの部分が税金によって支えられている。自分の学びの場が社会全体の支えで成り立っているのを考えると、おもしろかった。

しかし税金には課題もある。少子高齢化が進む中で、年金や医療など社会保障にかかる費用が増え、若い世代の負担が重くなっているという問題だ。また、税金の使い道に無駄があるのではないかという意見、批判を耳にする。税金は国民から集めたお金だからこそ、どのように使われているのか私たち自身で関心を持つていく必要があると感じた。

私たちは将来、税金を納める立場になる。今はその仕組みを学ぶ立場だが、いつか働き、自分の払った税金が社会の誰かを支えるようになる。そのとき、税金を取られる物という認識ではなく、未来をつくるために使うものとして前向きにとらえられる大人でいたいと思う。税金は社会の土台であり、未来への投資だ。だからこそ、正しく納め、正しく使われることが大切だと私は思う。そして自分自身も将来、税金の使われ方

に無関心ではられない一人として、社会の仕組みに目を向けていきたい。そのためには、今のうちから税に関する知識を深め、政治や経済にも関心を持つことが必要だと感じた。税金の使い道は私たちの一人一人の意見や選択によって変えていける。選挙での一票や、日々の会話の中でも、自分の考えを伝えることが社会を動かす第一歩になるのだと思う。これからも学びを続け、責任ある社会の一員として行動していきたい。これから大人になり納税者として責任を持つようになったとき、ただ受け身でいるのではなく、自分の意志を持って社会に関わっていききたい。そのため、税金や政治を「難しそう」と思わず、身近な物として捉える姿勢が大切だと思った。

(一般社団法人所沢法人会会長賞)

## 最近あったいい事

埼玉県立狭山経済高等学校

一年 伊波 樹里

朝、いつもの電車に揺られて、ぼーっと外を眺めると、線路沿いの道や家の前の歩道が目に入る。ちゃんと舗装されて、街灯も並んで。駅に着けばエスカレーターが動いて、ホームの黄色い点字ブロックもちゃんと整っている。普段は意識もしないけど、こういうのって全部お金をかけて維持されてるわけで、そのお金の多くは税金から出てる。もし街灯が消えて、道が穴だらけになったら通学は一気に不便になるし、ちよつと怖くもなる。

税金って、道や駅の設備だけじゃなくて、人の命や安全を守る仕組みも支えている。消防車や救急車、パトカーなんかがそうだ。何かあったとき、すぐに駆けつけてくれるのは当たり前みたいに思ってるけど、それはちゃんとお金が回っているから。公園や図書館、病院もそう。自分があまり行かない場でも、誰かには必要不可欠な場所だ。うちの祖母が受けている介護サービスも、一部は税金から出ているらしい。顔も知らない人同士が、お金を通して助けあってるってちよつといいなってる。

でも、ニュースで「税金の無駄使い」って聞くとやっぱりもやつとする。誰も使わない施設とか、よくわからないイベントとかに大金が使われているのを見ると、正直腹が立つし、せつかくみんなから集めたお金なんだから必要なことに使って欲しいって思う。税、スマホの充電器みたいなものだと思う。普段は存在を忘れていても、充電が無くなる、つまり、税が無くなったらめっちゃくちゃ困る。たとえば、下水道とか学校

の黒板だったりだとか、実際、税って気にしてないだけで日常の中にくさんまぎれてると思う。だから、将来、自分が税金を払う立場になったときは、ただ文句を言うだけじゃなくて「これで誰かが助かってるかも」って思えるような人になりたいし、もし無駄な使い方を見つけたら、「それは違うでしょ」って言える大人になりたい。

〔所沢県税事務所長賞〕

## 税金に込められた支えの力

西武学園文理高等学校

二年 吉岡 優里

私は、今まで税金がどのように使われているか関心があまりなく、どこか遠い話のように感じていた。しかし、一人の女の子に出会ってから、税金は「数字」ではなく「人の生活や未来」を支えているのだと感じるようになっていく。

私は中学三年生の頃、児童養護施設で暮らしている女の子と、同じクラスになったのをきっかけに仲良くなった。彼女は、ある時私に「私は税金で生きているんだよね」と突然そう言った。その時は、言葉の意味が分からなかったが、帰って調べてみると、児童養護施設で暮らしている子どもの生活は税金で成り立っていると知った。彼女と親しくなっていくうちに、彼女は児童養護施設の仕組みをいろいろ教えてくれた。生活費はもちろん、誕生日には好きな場所に連れて行ってくれることや、月に一度お小遣いがもらえること、服やコスメを買ってもらえることもある、など。正直、私が想像していたよりもずっと一般家庭と同じような暮らしだと感じた。私は思わず「いいな」と言うと彼女は「でも、みんなと違って親のお金じゃなくて税金だから。みんなからのお金なんだよね。」と、自分の持っている物を指しながら言っていたのを今でも鮮明に覚えている。その言葉からは、親に買ってもらうことへの憧れや、税金がなきゃ生きていけないという複雑な気持ちもあるかもしれない。

でもそこから、私の税への考え方が変わった。それまで私は、税金は社会に役立つからとりあえず払うものとしか考えていなかった。つまり、

「払いたい」ではなく、「払わなきゃ」という義務的な考えの方が近かった。しかし、彼女に出会ったおかげで、身近に税金の使い道を実感したと同時に、私も「税を払うことで人を支えたい」という前向きな思いに変わった。一人ひとりの思いやりが大勢集まることで、大きなものになり、彼女の生活を今も支えている。このような経験から、将来、税金を納める立場になったときも、税は誰かの生活を支える大切なお金だということを忘れずにいたい。

(狭山市納税貯蓄組合長賞)

## 未来のために

埼玉県立狭山経済高等学校

一年 小俣 月乃

私たちの生活と切り離せないものの一つに、税があります。税は国や地域社会を支えるために、みんなが少しずつ負担しているお金です。私は普段の生活の中で、買い物をするときに消費税を通してその存在を感じます。しかし、なぜ必要なのか、どのように使われているのかを考えたいことはあまりありませんでした。今回の作文をきっかけに、改めて税について調べ、考えてみました。

税は、私たちの生活をよりよくするために幅広く使われています。例えば、学校の教科書や校舎の維持には税金が使われています。もし税がなければ、私たちが安心して勉強できる環境は整いません。また、道路や橋の整備にも税が使われており、通学や買い物や安全に行えるのも税のおかげです。病院や消防、警察といった社会の安全や健康を守る機関も税によって支えられています。さらに、地震や台風などの災害が起きたときに、被害を受けた地域を助けるための復旧費用も税からまかなわれています。このように、税は目に見えにくいところで、私たちの生活を大きく支えているのです。

私は、普段の生活の中で税を「払う立場」として実感することはあまり多くありません。しかし、買い物をするときにレシートに書かれた消費税をみて、少し身近に感じるようになりました。家族との会話の中で、税金がなかったらどうなるのかを考えたこともあります。例えば、病院にかかる費用がすべて自分の負担だったら、体調が悪くても医者に行け

ない人が増えてしまうと思います。道路や橋の修理も進まず、安全に生活することが難しくなってしまうと思います。そのように考えると、税は「みんなが支え合うためのお金」なのだと気づきました。自分一人ではできないことも、社会全体でお金を出し合うことで可能になるのだと思います。

これから大人になっていけば、私も税を納める立場になっていきます。そのとき、ただ「仕方なく払うお金」と考えるのではなく、「社会の一員としての役割」として受け止めたいです。税は未来の社会を作るために必要なものです。今私が安心して勉強できる環境があるのも、税を納めてくれている大人のおかげです。次は自分がその役割を果たし、未来の子どもたちに安心して暮らしていける社会をつなげていきたいと思っています。税について考えることは、自分の生き方や社会のあり方を考えることにつながるのだと感じました。

(狭山市納税貯蓄組合長賞)

共助

西武学園文理高等学校

二年 横道 雄

私たちが暮らしている社会は、誰もが安心して生活できるように多くの仕組みで支えられている。その基盤となっているものの一つが「税」である。税は私たち一人ひとりが負担し合い、社会全体のために使われるものであり、単なる義務や負担としてではなく、社会を維持するため大切な「会費」のような存在だと考える。学校に通うとき、授業料だけでなく校舎の建設や教科書の一部にも税金が使われている。病院に行けば、高額な医療機器や公的保険制度を通じて、誰もが必要な治療を受けられるようになっていく。さらに、道路や橋、公園といった公共施設も税によって整備され、日常生活を便利で安全なものにしている。つまり、私たちが当たり前のように享受している社会の仕組みの背後には、必ず税が関わっているのだ。

近年、十八歳で成人を迎えるようになり、私自身も社会の一員として税を考える立場になった。これまで「払う側」という意識は薄く、むしろ「支えられる側」であつた。しかし今後は、自分が納めた税金が次の世代を支えることにつながる。税は単なる個人の出費ではなく、未来へと橋を架ける役割を持っているのだと実感するようになった。また、ニュースでは税制改革や社会保障の財源不足などが取り上げられることが多い。高齢化が進む日本では、医療や年金にかかる費用が増え続けており、若い世代がどのようにその負担を担うのかが課題となっている。ここで大切なのは「自分だけが損をしている」という見方ではなく、社

会全体で支え合うという視点だと思う。税の意義は、まさに「共助」の精神にある。もちろん、税の使い道が不透明であつたり、不公平に感じられる部分があるのも事実である。だからこそ、納税する側の私たちも関心を持ち、ニュースを通じて学び、意見を発信していく必要があるだろう。単に「徴収されるもの」として受け身でいるのではなく、「どう活かされるべきか」を考え、政治や行政に関心を持つことも、現代を生きる市民の責任の一つだと思う。

税は負担であると同時に、未来への投資である。子どもたちの教育環境を整えるため、災害が起きたときの復興資金を確保するため、また、安心して老後を迎えられる社会を築くため、税は欠かせない。私もこれから社会に出て税を納めていく立場になるが、それを「自分の役割」として誇りを持ちたい。そして、納めた税金がより良い社会づくりに活かされることを願いつつ、日々の生活の中で税の意義を実感していきたい。

(狹山市優秀賞)

## 負担するものから投資するものへ

埼玉県立狹山経済高等学校

一年 羽鳥 結生

「税金」と聞くと、多くの人は「納めるもの」「負担」といったイメージを抱くかもしれません。私自身もかつてはその一人でした。しかし、税について深く考える機会を得て、その意義と役割が私たちの社会を支える不可欠なものであることに気づかされました。

私たちの日常生活は、税によって多岐にわたる恩恵を受けています。例えば、登下校で利用する道路は、税金によって整備され、安全が保たれています。学校で学ぶ環境も、先生方の給与も、教科書や設備の購入費も、税金が充てられています。もし税金がなければ、これらの公共サービスは維持できず、社会は混乱に陥るでしょう。税の役割は、単に公共サービスを維持するだけに留まりません。税は、社会における富の再分配という重要な機能を果たしています。高額所得者から徴収された税金が、医療費の助成や年金、生活保護といった形で、経済的に困難な人々を支援するために使われることで、格差の是正に貢献しています。これは、国民一人ひとりが安心して暮らせる社会を築く上で不可欠な仕組みです。災害が発生した際には、被災地の復旧支援にも税金が投入され、困っている人々を助ける大きな力となります。このように、税は私たち国民が互いに支え合い、共に生きる社会を実現するための「会費」であると捉えることができます。また、税は未来への投資でもあります。少子高齢化が進む現代において、医療や介護といった社会保障費は増大の一途を辿っています。私たちは、今日の高齢者を支えるだけでなく、将来

の社会を担う子どもたちの教育や、科学技術の研究開発にも投資しなければなりません。これらの投資は、未来の社会を豊かにし、持続可能な社会を築くための基盤となります。もちろん、税の使途については常に国民の監視が必要です。税金が適切に使われているか、無駄がないかといった議論は、民主主義社会において非常に重要です。私たちは国民は、税金を納める義務だけでなく、その使われ方に関心を持ち、積極的に意見を表明する権利と責任があります。国税庁のウェブサイトにある「税の学習コーナー」などで、税の仕組みや使途について学ぶことは、納税者としての意識を高める上で非常に有益です。

税は、私たちの社会を成り立たせる基盤であり、国民一人ひとりが安心して暮らせる社会、そして未来へと続く社会を築くための不可欠な要素です。税の意義と役割を正しく理解し、納税者としての意識を高く持つことが、より良い社会の実現に繋がると私は考えます。税は決して「取られるもの」ではなく、私たち自身が社会を創造し、未来を拓くための「希望の資金」なのです。

(狹山市優秀賞)

## 私たちの未来を支える「税」というバトン

秋草学園高等学校

二年 横山 裕香

小学生の頃、社会の授業で「税金」という言葉を習いました。その時は、国や市が勝手に集めているものだと、漠然と思っていました。しかし、高校生になり、社会の仕組みを少しずつ理解するにつれて、税金に対する見方は大きく変わりました。

私たちの身の回りには、税金で支えられているものがたくさんあります。通学路の街灯や安全な道路、病気になったときに診てくれる病院。これらはすべて、私たちが納める税金によって維持・運営されています。もし税金がなければ、これらの公共サービスは成り立たず、私たちの生活は今のような便利で安全なものとはいえないでしょう。そう考えると、税金は遠い存在ではなく、私たちの生活に密着した、なくてはならないものだと分かります。

最近、ニュースで日本の財政状況が厳しいとよく聞きます。少子高齢化が進み、社会保障費が増える一方で、働く世代が減って税収が伸び悩んでいる。この状況を改善するためには、将来を担う私たち若い世代が、税金について真剣に考え、自分たちにできることを探していく必要があるのではないかと感じています。

では、私たち高校生に何ができるのでしょうか。まず、身近なところから意識を変えることが大切だと思います。買い物をするときに、消費税が何に使われているのか少しでも考えたり、選挙権を得たら、税金の使い道を真剣に考えている候補者に投票したりすることも、社会の一員

としての責任です。また、将来社会人になったとき、自分の得意な分野で社会に貢献し、税収を増やすことにも繋がります。

私は、税金は世代を超えて受け継がれる「バトン」のようなものだと考えます。私たちが今享受している公共サービスは、過去の世代が納めてきた税金によって築かれました。そして、今私たちが納める税金は、将来の世代のために使われることになります。このバトンを次の世代へしっかりと繋いでいくために私たちは「税金は自分たちの生活を支えるものだ」という意識を持つことが重要です。税金はただ払う義務ではなく、自分たちの未来への投資であり、社会をより良くしていくための大切なツールなのです。

もちろん、高校生の私ですぐに社会を変えるのは難しいでしょう。しかし、税金について学び、関心を持ち続けること、そして将来、社会の一員として責任ある行動をとること。それが、私たちの未来を支える「税」というバトンを、しっかりと次の世代へと繋いでいく第一歩になるはずです。



狭山市 セタの妖精

おりひい